

# 飲水思源

町長 松岡市郎

## 夢が生きている東川

東川町では数年前から少子化が続く中、専門学校の学生応募が定員数を大幅に下回り、確保が厳しい状況となっていた。また中心部の男女学生寮に空き室が目立ってきていた。

そこでアジアの国々を中心とした人々を対象として、2009（平成21）年から日本語教育の充実に努めている。2014（同26）年には、北工学園旭川福祉専門学校に日本語学科、2015（同27）年には日本で初めての町立日本語学校を開設した。町立日本学校では、北工学園で介護人材育成を図ること、日本で活躍する人材を育成することを主な目的としている。

町立日本語学校では、定員60名の1年以内コースと3カ月未満の短期日本語研修制度を通じて、コミュニケーション能力の高い人材育成に努めている。北工学園では昨年まで奨学金制度を充実させ、介護人材の育成にも努めて大変優秀な人材が育った。ところが今年になって奨学金を半額に圧縮したところ、介護福祉科への入学が激減してしまった。国は1億総活躍時代を提唱し、介護離職者ゼロを目指しているが、介

護を担う人材がどこも不足している。これでは必要とする介護人材が育たない、と関係市町村や施設と連携し、奨学金の充実に努めてこれまで以上に人材育成する計画をしている。

今、国会では外国人の雇用問題を巡って与野党の激しい論戦が繰り広げられているが、私たちが目指す介護、福祉人材は単純業務を担うのではなく、日本人とか外国人という枠を超えて、施設へ入所している方々に寄り添って介護を行う専門職としての役割を担う。日本文化や日本語の会話能力の向上を図るため、会話ボランティア、文化連盟の加入団体、地域自治振興会の方々、東川高校や東川中学校生徒らとの交流を通じて日本文化を体験し、コミュニケーション能力の向上を目指している。このように留学生の夢を実現するために地域の人々が応援してくれるのは、都会ではできない東川らしい支援である。

多くの卒業生が「いつかは東川に定住し、介護支援に当たりたい」と話してくれている。温かい住民の心が留学生の心を癒し、成長させている。夢が生きている東川である。

## 沈黙のパレード（一般書）

東野圭吾／著 文藝春秋／刊



町の人気娘が突然行方不明になって数年後に遺体となって発見された。容疑者は、かつて少女殺害事件で無罪となった男。だが今回も証拠不十分で釈放されてしまう。さらにその男が堂々と遺族たちの前に現れたことで、町全体を憎悪と義憤の空気が覆う。秋祭りのパレード当日、成し遂げられた復讐劇は如何にして？ ガリレオシリーズ第9巻。

## 北海道おいしいそばの店（一般書）

梅村敦子／著 北海道新聞社／刊



北海道は日本のそばの約4割を生産する一大産地。この本で取り上げたお店のほとんどは、店主の手打ちでつゆも手作り。地産地消を考えれば、これだけそばに適した土地はありません。一度は食べてみたい名店からそば好きが通う地元の老舗、新店まで、北海道の個性豊かな店をエリア別に紹介。店主のこだわりをつるつると召し上がれ。

## 貸し出し図書 ビデオ紹介

### せんとぴゅあⅡ ほんの森

7月、せんとぴゅあⅡに新図書室「ほんの森」がオープンしました。新図書室では本の貸し出しも始まりました。

★本、DVDの蔵書リクエストをお受けしています  
図書、紙芝居、雑誌は一人合計10点まで15日間、DVDは一人2本まで8日間

## すみれちゃんのお片づけ12カ月（児童書）

渡辺ゆき／文 小林キウウ／写真 岩崎書店／刊



すみれちゃんは整理整頓が大好きな小学4年生の女の子。写真はすべて、すみれちゃんの部屋で撮影したもので、徹底した整理術は大人顔負け！ 4月の学校で使うものの収納法から、3月で使わなくなった教科書の整理法まで、年を一巡して生活に必要な技術が身に付きます。さらに机周りの整理から服の洗濯や管理まで、子どもが実際に自分でできるお片づけを紹介。